

平成 24 年 11 月 12 日

株式会社ベルコ  
代表取締役 齋藤 齋 殿

一般社団法人 日本建築学会  
近畿支部支部長 横田隆司

### 旧大阪新歌舞伎座の建物の保存に関する要望書

拝啓、時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、本会の活動につきましてご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。さて、御社におかれましては、このたび旧大阪新歌舞伎座の建物を取得されましたが、この建物を解体し、新たに結婚式場とホテルなどの複合施設の建設を計画しておられる由、新聞等の報道にて聞き及んでおります。

ご承知のように、旧大阪新歌舞伎座の建物は、別紙「見解」に記します通り、日本を代表する建築家・村野藤吾（1891～1984）の代表作の一つであり、また竣工後 50 年以上を経た歴史的建造物として、極めて価値の高いものです。建物の正面は唐破風を全面に配したのとなっており、屋内では階段の手すりや天井部など随所に手間を掛けた工芸品のようなデザインが見られます。いずれも、日本の伝統的なデザイン要素を用いながら、村野藤吾ならではの独創的なものとして造られています。また難波の御堂筋に面して建つ本建築は、長らく大阪の文化の象徴として広く社会に知られてきたものであり、かけがえのない建築であります。

近年では、こうした大規模な鉄筋コンクリート造建築は、構造体の補強及び機能に応じた整備や改修によって、長寿命化を図り活用してゆくことが、建築資源の有効活用の視点からも求められております。

この文化的資産ともいえる建築を保存し活用を図るための方途を積極的にご検討頂き、貴重な文化財保存が果たされますようお願い申し上げます。

なお、本会はこの建築の保存に関して、技術的支援などできます範囲でお手伝いさせていただきますと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある建造物と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成 24 年 11 月 12 日

## 旧大阪新歌舞伎座の建物についての見解

一般社団法人 日本建築学会近畿支部  
近代建築部会 主査 笠原一人

### ・建物の概要

大阪市中央区難波 4 丁目 3-25 に所在する本建築は、1958 年（昭和 33 年）に竣工している。鉄筋コンクリート造地上 5 階建て地下 2 階を有する建築で、当初の建築面積は 1,993.2 平米、延べ床面積は 11,088.0 平米を有する。設計は村野・森建築事務所（村野藤吾）、施工は大林組による。

竣工後、音響設備が入れ替えられるとともに、場内が改装されているが、建物の外観はほぼ竣工当時のまま残されているほか、内部の階段やその周囲、天井、劇場内の天井などは、竣工当時のまま残されている。全体としては良好に維持されている。

### ・村野藤吾の作品としての価値

村野藤吾は、1918 年に早稲田大学建築学科を卒業後、大阪の渡辺節が主宰する渡辺建築事務所に入所し、それ以来大阪を拠点とする。1929 年には大阪に村野建築事務所を開設し（1949 年に村野・森建築事務所に改称）、商業施設、オフィスビル、住宅、学校施設、美術館など、全国各地で数々の建築の設計を手掛けた。その作品は日本建築学会賞や日本芸術院賞を受賞している。また村野は、1955 年には日本芸術院会員となり、1967 年には文化勲章を受章するなど、日本を代表する建築家としてよく知られている。日本建築家協会会長、イギリス王立建築学会名誉会員、アメリカ建築家協会名誉会員としても活躍した。

2005 年には宇部市渡辺翁記念会館（1937 年竣工）、2006 年には広島世界平和記念聖堂（1953 年竣工）、2009 年には村野が増築部分の設計を担当した東京の高島屋東京店（1952 年竣工）が、それぞれ国の重要文化財に指定され、また 2009 年には村野が修復および改修設計を担当した迎賓館本館（旧赤坂離宮／1909 年竣工／1974 年修復改修）が国宝に指定されるなど、近年村野藤吾の作品は文化財としての価値が高く評価されている。

旧大阪新歌舞伎座は、日本の伝統的な要素を用いながらも、村野ならではの極めて独創的なデザインによって造られている。それは、商業的な分かりやすさと芸術性を同時に備えたものだと言える。村野は戦前、大阪の建築家渡辺節の建築事務所に勤めており、そこで人々に親しまれる建築のあり方を学んだ。旧大阪新歌舞伎座の外観には、大阪ならではの建築観が村野によって受け継がれ、よく反映されている。

旧大阪新歌舞伎座は、数多くの村野藤吾の作品集のほとんどに掲載されており、本建築は村野の代表作として位置づけられている。また、本建築の設計図が、その草案などと

もに京都工芸繊維大学美術工芸資料館に収蔵されている。2005年の第5回村野藤吾建築設計図展ではその図面類が展示され、『村野藤吾建築設計図展カタログ5』（京都工芸繊維大学美術工芸資料館発行）に、その図面が竣工時の写真などとともに収録されている。

#### ・デザイン上の価値

旧大阪新歌舞伎座は、村野藤吾が施主から歌舞伎に因んだ桃山調の建物とするよう依頼され、二条城などをモデルにしながらデザインしたものである。建物の正面には頂部に大きな千鳥破風を載せ、壁面には通常一つだけ取り付けるはずの唐破風が連続的に反復しながら全体を覆っており、他に類例を見ない独創的なデザインとなっている。また木造の柱梁の構成を鉄筋コンクリートに置き換えられ、屋内では階段の手すりに手工芸的な凝ったデザインが見られ、格子や縞模様を天井や壁面に反復して用いている。彫刻家辻晋堂の作による棟飾りも建物によく溶け込んでいる。歴史的な要素を用いながらも、それが全く独創的な形でモダンなデザインと融合している。それは、1950年代後半に日本の建築界で大きなテーマとなっていた、日本の伝統を考慮した建築の優れたあり方を示している。

#### ・景観上の価値

旧大阪新歌舞伎座は、大阪のミナミの中心である難波に建っている。難波には百貨店や商業施設、大衆芸能施設などが数多く立地している。中でも旧大阪新歌舞伎座は、御堂筋に面した敷地に、大阪を代表する文化施設として、長年存在してきた。建物の斜め向いには、ヨーロッパの様式的なデザインの高島屋大阪店（久野節建築事務所、1933年）があり、ともに大阪の文化の象徴として、戦後の難波の景観を形づくってきた。難波の歴史的景観を支える重要な建築である。

